

校長室より

## 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼敦之

## 3年登校最終日に思う

連日の強風で朝の玄関前も寒さが厳しい日が続きましたが、2月最終日の29日は、幾分寒さが和らいだ感じでした。段々と春の訪れも感じられるようになってきました。玄関前の桜を眺め、少しつぼみも膨らんだかなあと日々成長を見守っています。

今日は、3年生が「賞状授与式」及び卒業式準備等で登校日でした。3年間通ったいつもの風景も、いよいよ最後です。久しぶりに朝から学校に通うことになったでしょうが、朝はしっかり起きれたかな？ 通い慣れた九段坂もこれが最後だと思うと、ちょっと寂しさが込み上げてきたかもしれませんね。

「おはよう」と声を掛ると、元気な返事も返ってきました。「元気にしてた～」との問いかけに「お久しぶりです」とのやり取りも、中には思い出したかのように「そうだ、最後の挨拶だ～」と言って校舎内に消えていく姿もありました。

賞状授与式は、明日の卒業式の予行も兼ね、少し緊張した感じでしたが、仲間との会話に笑顔がほころぶ場面も多くありました。それぞれのフィールドで力を発揮して表彰を受けた人、心折れずに学校に通い続けた人、二松での生活をしっかりと過ごし、充実感を胸にこの3年間を走馬灯のように思い浮かべていた人など。人それぞれ、二松での経験は違えども、間違いなく皆さんは成長し、たくましくなった、力を付けたということは言えるでしょう。三年間の学校生活の過程を大切にし、一つの通過点で得るべき成果を皆さん誰もがつかみました。勉強で頑張ったことも部活動や学校行事の成果も二松学舎の三年間という過程を経て、皆さん自身でつかんだ頑張りであり、成果であり、結果です。本校の目指すべき生徒像である「自らを高めようとする生徒」を求め、これからもチャレンジを続けてください。

皆さんは、これからいよいよ新しい生活に向けての第一歩を踏み出すこととなります。これからの人生で嬉しい時、苦しい時さまざまな場面で二松学舎附属高校のことを思い出し、機会があれば訪れてください。教職員一同お待ちしております。「人生100年時代」といわれ、これからの長い人生を考えると、まだスタートしたばかり、5分の1です。皆さん一人ひとりが悔いのない充実した人生を送られることを心より願っています。

この記事がアップされる頃、3年生は卒業式を終え、二松を巣立っていることでしょう。

さあ新しい出会いが待っています。更なるステップアップを目指して二松から飛翔へ。

